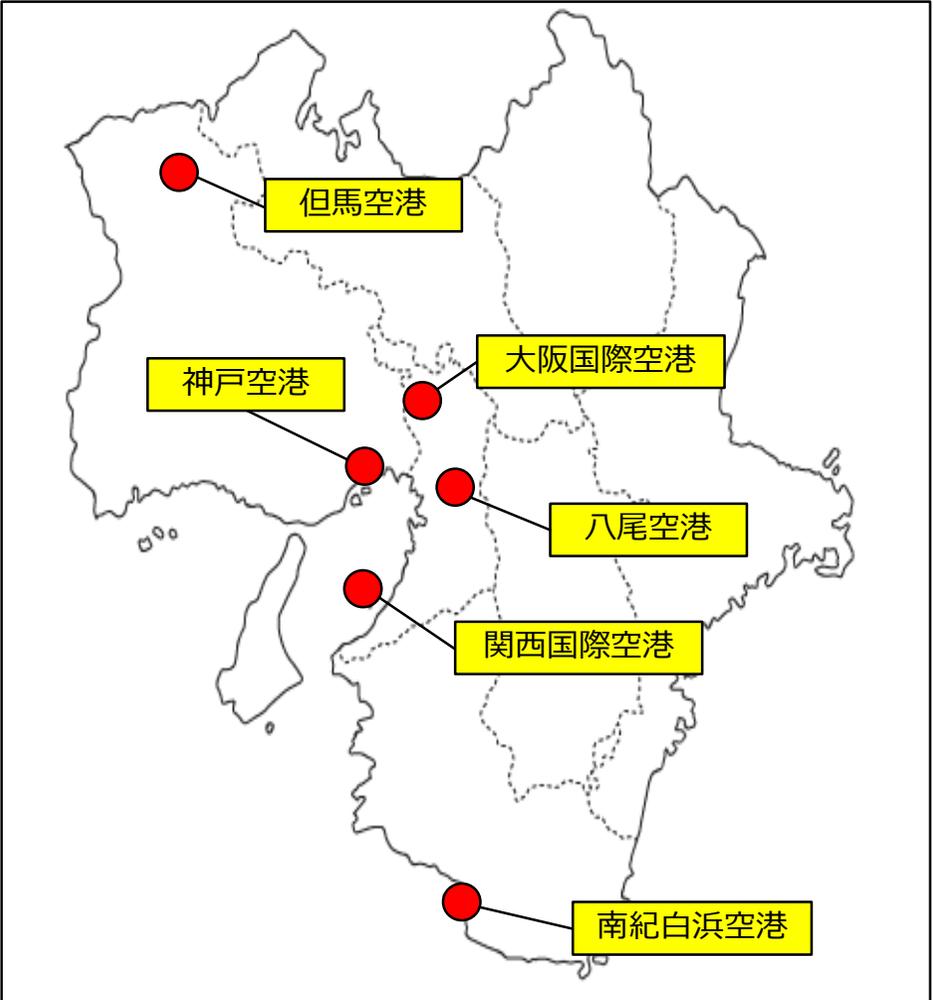


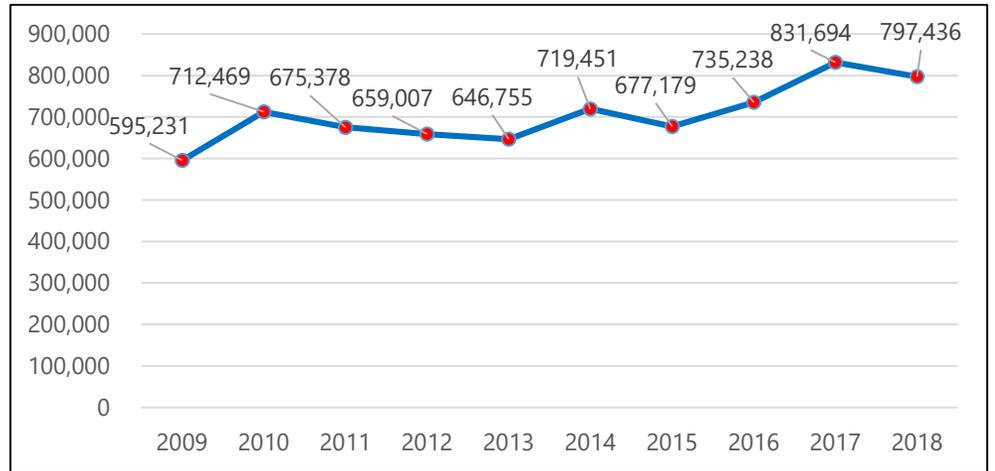
国際物流戦略チームの取組状況について
各分野における物流機能強化

- 関西国際空港では、国際貨物取扱量が増加傾向で推移。（2018年度は台風21号の影響で減少）
- 発着回数は就航都市数の増加により（85都市（2018年冬ダイヤ））、国際線が大幅に増加。

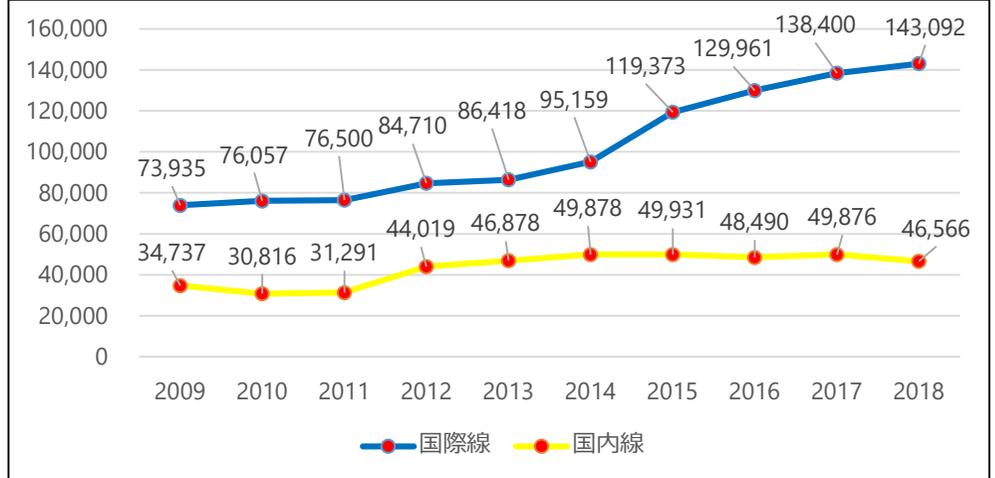
○近畿の空港



○関西国際空港 国際貨物取扱量推移 単位：トン／年度



○関西国際空港 発着回数推移 単位：回／年度



航空分野における最近の動き（関西3空港懇談会）

1. 2005年に関西3空港（関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港）の役割分担・運用の在り方について合意され、2010年には関西国際空港を国際ハブ空港として強化していくために、関西3空港の一元管理などを基本認識とした「取りまとめ」が示された。

「取りまとめ」要旨

①概ね10年先までの関西3空港のあり方

- ◆関西空港は首都圏空港と並ぶわが国の2大国際ハブ空港～財務構造の抜本解決が急務～
- ◆伊丹空港と神戸空港は、周辺都市の航空需要に対応しつつ、関西空港のハブ機能を補完する空港
- ◆一元管理による関西3空港を戦略的に広域に最適活用
- ◆アクセス改善で一元管理の効果を更に向上、関西空港のハブ機能を強化

②長期的な関西3空港のあり方

- ◆リニア計画の詳細確定後に、関西3空港のあり方を見直していく必要がある。

2. 2010年以来、関西3空港の環境は変化しており、関西国際空港と大阪国際空港の経営統合、コンセッションの実施により関西エアポート（株）による関西3空港の一体運営の実現、インバウンドの急激な増加など、航空需要はさらに拡大していくと期待され、関西3空港の最適活用について改めて議論するため懇談会が再開され、今後の取組・議題が取りまとめられた。

■今後の取組・課題

○関西エアポート社が主な主体となることから、その経営判断を尊重し、その取組と連携・協力していくことを基本に、以下のとおり整理

項目	概要
2021年頃までの短期の視点に立った取組	<ul style="list-style-type: none"> ・関西空港：災害対応力の抜本的強化 ターミナル1リノベーションの着手など国際拠点空港としての一層の機能強化 ・伊丹空港：ターミナル改修等による機能強化・利便性向上 ・神戸空港：関空・伊丹を補完し関西の航空需要に適切に対応するため、神戸市及びその周辺とこれを結ぶ地域の航空需要と航空上の安全性を踏まえた国内線発着枠、運用時間の段階的拡大（当面、最大発着回数60回⇒80回/日、運用時間を22時⇒23時まで延長）、空港アクセス強化の検討、プライベートジェットの受入推進（CIQ関係省庁への協力要請等） ・全体：3空港の災害対応力向上、発災時の3空港相互支援体制などの整備
2025年頃までの中期の視点に立った取組	<ul style="list-style-type: none"> ・関西空港：旅客処理能力の拡大継続、環境影響調査の検証、将来需要に応じた発着容量の拡張可能性に関する検討、内陸ネットワークのさらなる充実など国際拠点空港としての競争力強化と需要拡大 ・神戸空港：関空・伊丹を補完する観点から、国際化を含む空港機能のあり方の検討
上記以外の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・伊丹空港：存続協定等を尊重し、地元関係者と対話しながら取組を進めることが重要 運用時間外の発着便や代替着陸便等については、関係者と連携して定時運航率の向上などに取り組み、周辺環境の改善への努力と利用者利便の向上を図る 伊丹空港の将来像については、上記の課題解決を図った上で、存続協定や国の経営統合基本方針、地元の意向、短中期の取組等を踏まえ、また、将来の大幅な需要変動を見据えて、国際便の就航可能性を含めた今後のあり方について、状況に応じて議論する

